

道路改修計画における地域資源の活用に関する研究 —福岡市中央区清川ロータリーを事例として—

福岡大学大学院工学研究科

学生会員 ○小西圭介

福岡大学工学部社会デザイン工学科

正会員 石橋知也, 柴田 久

1. はじめに

一般的に道路整備においては、交通機能や安全性の確保が重要視されることとなる。しかし、そうした単目的な道路整備によって地域固有の資源（例えば、歴史的資源）が消失されるケースは避けなければならない。一度失われた資源を再生することは困難であり、公共事業の性格上、同じ地区で何度も整備が行われることも期待できない。すなわち、予め資源を把握し保存することの重要性が提起されよう。よって地域らしさや景観を活かした道づくりが目指される今日の道路整備を考えるうえで、地域固有の資源の活用方法を模索することは急務の課題といえる。そのようななか福岡市では、福岡市道路整備アクションプラン 2011 の方針に基づき、福岡市中央区清川 172 号線バリアフリー整備が進められており、上述した地域資源を取り巻く課題に直面している。

以上を踏まえ本研究では、福岡市中央区清川地区に存在するロータリーに着目し、①ロータリーに関する史料や住民へのヒアリング調査によって、地区における歴史的価値を整理した。②さらに交通調査や事故データに基づきロータリーの現状を把握した。③加えて、清川 172 号線バリアフリー整備に関わるワークショップ（以下、WS）を通して、ロータリー整備に対する地区住民の意見を得た。これらより、地域資源を活用したロータリー整備の留意点について検討することを目的とする。

2. 歴史からみる清川とロータリーの関係性

(1) 現在まで継承される街区形状

江戸時代から約300年続く遊郭が柳町（福岡市下呉服町）にかつて存在した。しかし、1903（明治36）年に京都帝国大学福岡医科大学の招致が決定したことにより、1910（明治43）年に現在の福岡市中央区清川に移転することとなった¹。遊郭移転に伴い、郊外の田畑が開拓され、新柳町と名付けられた。当時の福岡市実測図²からは新柳町の街区形状が把握でき、ロータリー

のある位置に隅切りされた交差点が看取された【図-1】。さらに、大正・昭和・平成に作成された地図³を比較した結果、街区形状は現在に至るまで変化していないことが把握された。

(2) メインストリートとしての清川172号線

現在の清川172号線は、かつて大門通りと呼ばれており、この名は遊郭の入口に石門が整備されたことに由来する。また通り沿いには、新柳町遊郭に従事する労働者の食事を賄う共同炊事場があった。ヒアリングから、大門通りは「どんたく舞台や屋台」「飾り山展示」等で賑っていたことが把握された【表-1】。また遊郭廃止（1958年）後には、旧遊郭経営者達は「南都振興会」を立ち上げ、上記共同炊事場の跡地にキャバレー「月世界」を建設した。昭和40～50年代には、清川は月世界を核とする歓楽街となった。このように清川172号線の沿線には、時代を反映した施設が立ち並び、人々の活動景が存在していた。以上より、この通りは清川地区のメインストリートとして位置づけられるといえよう。

(3) コミュニティ形成の場としてのロータリー

ヒアリング【表-1】から、現在のロータリーの位置にかつて井戸が存在していたことを確認した。そこでは「近所の人と洗濯をした」などの活動が把握された。また井戸が埋め立てられた後も、住民によるロータリー内の草抜き活動等の存在を確認した。これより、ロータリーのある空間が日常生活に密着したもので、コミュニティ形成の場として機能していたものと推察される。



図-1 開拓当時の清川と街区形状

3. 清川ロータリーを取り巻く現状調査

(1) 交通機能面からの検討

ロータリーへの流入に着目した交通量調査【写真-1】から、一般的なロータリーの交通処理容量内であることが把握された。ロータリー内の駐停車状況調査からは、駐停車車両の8割がタクシーであり、その所要時間は平均4分であったことを確認した。一方、歩行者と自転車の通行軌跡をトレースする動線調査【図-2】から、自転車の多くはロータリー中心部近くを通行することが確認された。

さらに中央警察署提供の人身事故データ（平成13～22年）を分析した結果、平成18年以降は事故件数が減少傾向にあること、自転車の関係する事故や車の単独事故が相対的に多いことを把握した。

(2) バリアフリー整備WSにみる住民意見

ここでは、清川地区で現在併行して行われているWSで得られた参加住民からの意見を整理する。なお、WSには自治会メンバーや近隣商店主らが参加し、年度末までに全4回行われる予定である。

表-1 ロータリーと清川172号線の変遷及び活動

ヒアリング対象者	住所	年齢 (在住歴)	ヒアリング日時	ヒアリング調査結果
A(男性)	清川1丁目	57歳 (57年)	2010/10/26 11:00～	Q1:ロータリーができた時期について Q2:ロータリー及び172号線の変遷について Q3:清川の町の変遷と住民の活動の変化について 新御町に関すること(～明治33年) 幼い時からロータリーはあった。通りは、遊郭の街並みが色濃く存在した。昔は飾り山があった。 清川に関すること(昭和34年～) どんたくレドが通っていた。信号機が出来て渋滞するようになった。薬局や美容院が多い。マンションが多くなった。夜間の交通事故が多い。タクシーの駐車がが多い。
B(女性)	清川2丁目	63歳 (63年)	2010/11/1 13:00～	新御町に関すること(～明治33年) 80年(心)前からロータリーがあった。ロータリーにどんたく舞台があった。 清川に関すること(昭和34年～) 歓楽街であった。昭和40年代まで、清川は活気があったが、50年代から町に活気がなくなった。交通事故が多い。ロータリーに愛着があり、残したいも、交通事故が減らないのなら、ロータリーをなくしてほしい。
C(男性)	清川3丁目	41歳 (27年)	2010/11/1 19:00～	清川に関すること(昭和34年～) 住民がロータリーの草抜きを行っていた。ロータリーの地盤が低く、昭和40年代にロータリーが浸水した。子供の頃は歓楽街であった。修学旅行生が訪れていた。清川にあまり、良いイメージはない。清川172号線の大規模な整備はない。月世界が清川に活気を与えていた。20年前にネオンの看板が撤去された。日赤通りの抜け道として使われるようになった。現在の清川の特色がない。
D(男性)	清川3丁目	48歳 (30年)		
E(男性)	清川3丁目	60歳 (60年)	2010/11/2 10:00～	新御町に関すること(～明治33年) 通りに洋館など遊郭の街並みが存在した。ロータリーの前は井戸があったと聞いている。昔は飾り山があった。
F(男性)	清川3丁目	57歳 (57年)	2010/11/4 14:30～	新御町に関すること(～明治33年) ロータリーができる前は、井戸があったと聞いたことがある。山笠の自治があった。どんたく舞台があった。清川1丁目は歓楽街であった。
G(男性)	清川2丁目	85歳 (85年)		清川に関すること(昭和34年～) 花街から旅館街を目指した。ロータリーがあり、バスが通れなかった。修学旅行生が清川の旅館に宿泊しなくなって、町に活気がなくなった。ロータリーの前に屋台があった。清川に月世界等の大きなキャバレーがあり、活気があった。町の雰囲気が変わって、昔を感じられる場所がない。何となく、ロータリー撤去の話があった。
H(女性)	清川3丁目	59歳 (37年)		
I(女性)	清川2丁目	74歳 (53年)	2010/11/4 14:00～	新御町に関すること(～昭和33年) ロータリーの前に、ポンプ式の井戸があった。住民は井戸で洗濯をし、コミュニケーションの場であった。
J(女性)	清川2丁目	92歳 (65年以上)		



写真-1 現地の状況と調査風景

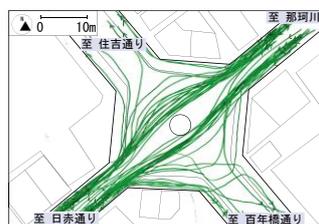


図-2 動線調査結果の一例

利用面や事故に関する問題点として「歩行者・自転車は渡りにくい」「交通ルールに不慣れな人は戸惑う」「夜間の事故が多い」「ロータリーの中心部が小さく存在がわかりづらい」「タクシーが多く見通しが悪い」などが挙げられた。一方「ロータリー中心部の花壇がきれい」「ロータリーのおかげで大きな事故が少ない」「ロータリーは昔からあるので残したい」という肯定的意見も把握された。WSでは、ロータリーを残す方針で整備を行うことが合意形成されつつある。

4. まとめ

(1) 清川ロータリーの地域資源としての価値の顕在化

清川地区の歴史について既に述べたが、現在に至るまでに町名の改名や周辺店舗の撤退等、かつての遊郭や歓楽街であった華やかな町の面影は失われた。

このことから、往時の清川の様子、暮らしぶりなど、歴史や文化を示す手掛かりは、時代の流れと共に徐々に消え、現在はロータリーと街区形状のみであり、ここに地域資源としての価値が把握されよう。

(2) 清川ロータリーの交通機能上の課題

交通に関する複数の調査結果より浮き彫りになったロータリーの交通機能上の課題を整理する。①ロータリー内を通過する通行者への配慮が必要で、特に自転車への対策が必要であること。②ロータリーという特殊な交通ルールは、来街者などの不慣れな人にとっては認識されにくいこと。③ロータリー内の駐停車車両は見通しの阻害や円滑な通行の妨げになること。以上の3点が明らかとなった。

(3) ロータリー整備の留意点

以上の研究成果を踏まえ、歴史と交通機能の両面から今後のロータリー整備における留意点を整理すると以下の4点が挙げられる。

- ① ロータリー交通ルールの分かりやすい表示方法
- ② ロータリー内通行の明確な分離
- ③ 通りの見通しの確保とロータリーの顕在化の両立
- ④ 休憩などの滞留機能に対応した空間的設

参考文献

- ¹ 井上精三, 博多風俗史遊里編, p181, 1968
- ² 福岡市, 福岡市実測図, 大正初期
- ³ 例えば, 福岡市, 福岡市都市計画図, 1969